

地域資産を活かしたまちづくり・ひとづくり

じゅっこくふね ～十石舟の復活と酒蔵の活用～

(株)伏見夢工房 観光担当部長・伏見観光協会 専務理事 永山 恵一郎 けいいちろう

1. 地域づくり方針・目的

○郷土愛づくり

まちに眠る数多くの地域資産を再認識し組み立て活用し、それらを地域の方々と協働していく。

○人づくり

様々なまちづくり活動をまち全体に広げ、地域の方々と活動を積み重ね、地域特有の多くのタウンマネージャーを生み出していく。

2. 取り組み内容

○地域資産（１） 水辺空間での取り組み

- ①十石舟・三十石船の運航
- ②伏見万灯流し
- ③河川清掃
- ④河川への紫陽花・紅葉・ユキヤナギの植樹
- ⑤河川ライトアップ

○地域資産（２） 酒蔵を活用した取り組み

- ⑥酒蔵通り花燈路ライトアップ
- ⑦伏見のご案内どころ伏見夢百衆の運営

○人づくり

- ⑧京都伏見ジュニア河川レンジャー活動
- ⑨伏見リバースクール（夏休み親子歴史教室）・（歴史探訪）
- ⑩We Love Fushimi クラブの設立

3. 苦労点・達成度等

TMO 設立当初は、プレーをする側のまちづくりへの意識には大きな温度差があったが、設立5年目を迎える現在、実際の取り組みを一つ一つ具現化し例をしめしております。今はまだ、まちづくりメンバーは少ないが、まちへの取り組み意識は前向になってきている。

4. 効果・反響等

- ・ 地域の生活者から、まちづくり会社の役割の認識と期待感等が高まってきている。
- ・ 地域外からは、十石舟、三十石船の小さな旅で、ゆったりした酒蔵空間、町並み空間の落ち着いた時間を感じていただき観光客の方々から、ゆったりとしたまち、気持ちのいいまち、賑わいのあるまち等の声が多く聞かれている。
- ・ 又、地域資産を活用し、まち全体を巻き込んでいるという視点での視察が増え、今年度は現在までに全国26ヶ所からの視察が来ている。

5. 今後の課題等

- ・ 地域内外へ向けての情報発信が不可欠
- ・ TMO 内の運営体制の整備、人づくり
- ・ 担当行政とのパートナーシップの具現化、行政内部でタウンマネージャーに匹敵する人づくり
- ・ まちづくりを点、線、面という視点でとらえた短期、中期、長期のまちづくり計画が必要

地域資産を活かしたまちづくり・人づくり

～十石舟の復活と酒蔵の活用～

京 都 伏 見



かつて伏見は「京・伏見」と並び称され、平安時代には風光明媚な土地柄から貴族の別荘が立地し、京都とは異なった独自の文化を築いてきました。安土桃山の時代には豊臣秀吉の伏見城築城に伴い伏見港が整備され、京都・大坂・奈良・近江の中継地となり人や物資、情報等の集積地として全国的な港町となります。また城下町として全国各地の有力大名が屋敷を立て、大名たちに呼び寄せられた様々な商工業者も伏見に集まりました。江戸時代に入ると徳川家も街道と水運の集中する伏見を重視し貨幣経済の中心「銀座」等を立地、伏見はその交通の利便性から幕府公認の三十石船や二十石舟等多くの舟が往来し宿場町として賑わい一大消費地を形成し、良質の地下水にも恵まれたこともあり酒造りが盛んになり、酒の町としても全国有数のまちとなります。幕末には西国大名は作物の換金と情報収集のため伏見に屋敷を構え、坂本龍馬もそうした土地柄ゆえに伏見を訪れました。しかし、「鳥羽伏見の戦い」でまちは焼け野原となります。昭和3年には伏見町から伏見市となり昭和6年京都市と合併。

このような歴史を持つ伏見は、河川、酒蔵、歴史的建築物、史跡、社寺仏閣、町名等数多くの地域資産に恵まれているのですが、数年前まで地域資産を地元であまり意識していないのが現状でありました。独自の文化を形成してきた伏見の地域の方々には独特のまちへの視点を持っており、地域の方々とともにまちづくりを行っていくうえでは、歴史の伝承と、現在眠っている地域資産を活用した人づくりと郷土愛づくりが重要であると考えます。

TMOエリア



主な取り組みの経緯

実施時期	ポイント	実施母体	地域内	地域外	行政との連携	写真
平成2年-	水辺空間への取り組みのはじまり		永山個人の取り組みからスタート	荒廃している河川やまちに対しては無関心	汚れた川、治安の良くないまちとしての印象を持たれていた	無
平成6年7月	郷土祭り・人づくりをテーマとして取り組みをはじめる	伏見観光協会 地元実行委員会	伏見観光協会 地元実行委員会	まさに眠る地域資産である水辺空間での取り組みを具現化。酒蔵コンサート・酒蔵コンペ等で酒蔵活用の活路を開きこす	河川が伏見の地域資産である事実を多くの人が認識する	京都府港湾課
平成7年4月-	地域資産である河川を渡し、人づくりへ向けた継続的取り組みをはじめる	伏見観光協会	伏見観光協会	河川が地域資産であることを認識する	水辺空間へ足を運ぶ方が年々増えはじめる	京都府土木事務所
平成7年5月-	地域資産である河川を渡し、郷土祭りへ向けた継続的取り組みをはじめる	伏見観光協会 平成14年より 伏見夢工房	伏見観光協会 平成14年より 伏見夢工房	河川への不法投棄が無くなる	河川が美しくなり始めるという声が増えるようになる	京都府土木事務所 京都市緑水事務所
平成7年9月-	地域資産である河川を渡し、人づくりへ向けた継続的取り組みを拡大する	伏見観光協会	伏見観光協会	河川美化の取り組みへの参加者が増加する	川の水がきれいになり、川が賑わい始めるようになる	京都府土木事務所
平成10年4月	地域全体でまちづくりを行っていったための組織づくりをし始める	伏見観光協会	伏見観光協会	まちを面的な視点で捉えていくきっかけとなる		京都市商業振興課

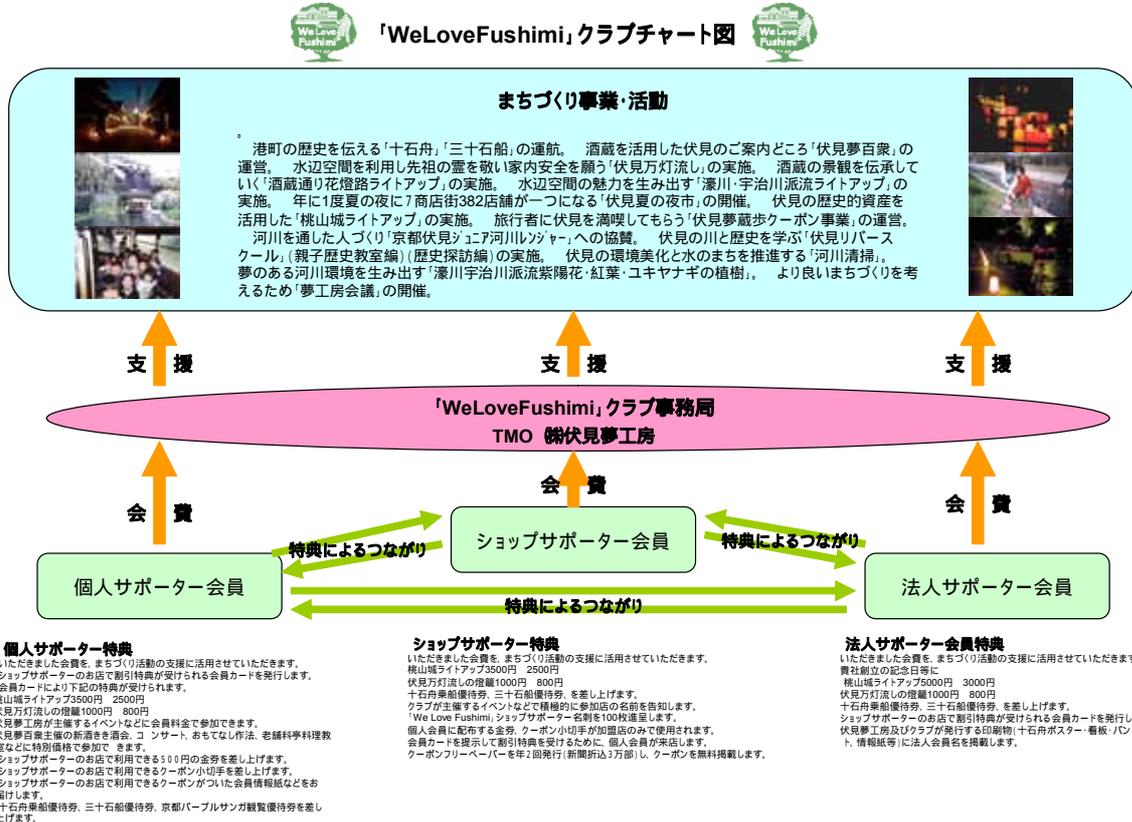
主な取り組みの経緯

実施時期	ポイント	実施母体	地域内	地域外	行政との連携	写真
平成11年11月	酒蔵という地域資産を活用し、地域の各団体・民間事業者と連携できる取り組みをし始める	FTMO	地域の各団体、異業種間の理解連携が生まれる			京都市商業振興課
平成14年2月	地域資産である河川を長期的視点で捉え、将来世代の方々とともに考え取り組みを具現化していく	伏見観光協会 地域福祉団体京都緑山ライオンズクラブ	伏見観光協会 地域福祉団体京都緑山ライオンズクラブ	より良い水辺空間づくりを長期的視点で考えたい意識が生まれる	季節感の感じられる水辺空間という声が増えるようになる	京都府土木事務所
平成14年3月-	地域全体でまちづくりを行っていった組織づくり	TMO 以降継続伏見夢工房	TMO 以降継続伏見夢工房	発足当初は夢工房への認識は低かったが様々な角度からの取り組みを継続し行うことで現在は地域の方々の理解と期待が高まり、同時にまちづくりへの積極的な参加意識が生まれている	全国の行政各団体からは地域を巻き込んだまちづくりという視点での相談が訪れるようになる	京都府 京都市商業振興課
平成14年3月-	まちづくりを具現化していったための定期的会議	継続伏見夢工房	継続伏見夢工房			京都市商業振興課
平成15年3月	地域が主役となる取り組みで地域内のムードを盛り出す	主催/京都府 共催/伏見観光協会 企画運営協力/伏見夢工房	主催/京都府 共催/伏見観光協会 企画運営協力/伏見夢工房	取り組みを具現化していくことを体感し、まちづくりへの関わり方の可能性を認識した声が増えるようになる	広範囲の方々に伏見の地域資産についての新たな認識が生まれる	京都府 京都市緑水事務所 京都市建設総務課
平成15年3月	現在活用されている地域資産と新たに生まれた地域資産をつなぐ	主催/国土交通省近畿地方産業振興局(河川事務所) 実施/継続伏見夢工房	主催/国土交通省近畿地方産業振興局(河川事務所) 実施/継続伏見夢工房	まちづくりに対する積極的な意見が増加、コンセンサス形成の範囲が広がり、可能性が生まれる	全国有数の地域資産に贈られる賞の声と河川舟運についての理解関心が新たに高まっていく声が増えるようになる	国土交通省近畿地方整備局(河川事務所) 河川環境管理財団(大阪事務所) 京都市土木事務所 京都市緑水事務所
平成15年7月-	地域資産である酒蔵を園としてつなぎ新たな賑わいづくりを始める	継続伏見夢工房	継続伏見夢工房	地域資産の活用方法に可能性を感じ、まちの持つ大きな潜在能力を認識しはじめる	夜間にまちを訪れる方が増え始める	京都-花燈路推進協議会
平成15年9月-	地域資産・地域性をPRできる施設を開発する	継続伏見夢工房	継続伏見夢工房	まちへの来訪者の増加を感じ、新たなまちへの誇りと郷土愛が生まれる	酒のまち酒蔵のまち趣のあるまちとしての認識が幅広い世代に広がる	京都府 京都市商業振興課

主な取り組みの経緯

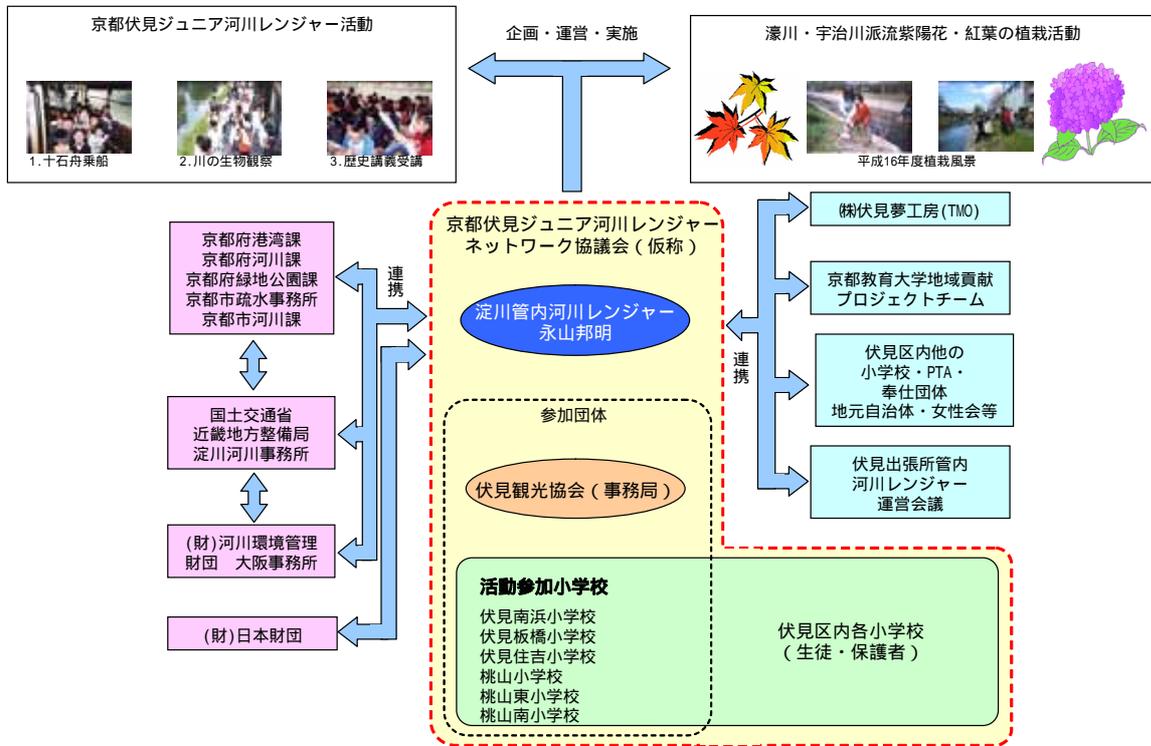
実施時期	ポイント	実施母体名称	地域内	地域外	行政との連携	写真
平成15年11月-	地域資産である河川を通し、人づくりとネットワークづくりを複数の視点で考える	伏見夢工房 伏見観光協会	まちの地域資産を話題としたコミュニティケーションが生まれる		国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所・河川環境管理財団大阪事務所	
平成16年4月-	多角的な視点で開いている地域資産を現実に活用していく	伏見夢工房	わがまちとして、誇りをもって知人、親戚等来訪者を招く方々が増加	伏見はゆったりと落ち着いた時間を過ごせるまちだ。という声が増えるようになる	国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所・京都府土木事務所・京都市土木事務所	
平成16年7月-	地域資産である河川を通し、地域内外広範囲の方々に情報発信を行っていく	伏見夢工房	河川近辺に住んでいない方々にも河川に対する意識が芽生える	伏見で改めて自身のまちの河川や地域資産について意識を持ったという声が増える	国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所・河川環境管理財団大阪事務所	
平成16年8月-	地域資産である河川を通し、地域に伝わる歴史的な伝統とともに、地域を巻き込んだ新たなネットワークづくりをはじめる	伏見観光協会 伏見夢工房 洛南保寿会	水辺空間を利用したまちづくりの新たなネットワークが生まれる	水辺空間を新たな視点で考えることができたという声が増える	京都府土木事務所 京都市土木事務所	
平成16年12月-	淀川管内河川リゾナー任命	伏見観光協会専務理事・伏見夢工房観光担当部長 永山が16年度からの試行活動を経て淀川管内河川リゾナー第1号に任命	伏見夢工房	河川リゾナーに対する認識が徐々に広がる	国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所	
平成17年3月-	地域資産である河川を通し、地域の方々自身が夜間、積極的に開いている取り組みを計画する	伏見観光協会 伏見夢工房	まちづくりへの積極的な参加を希望する声が増える	観光客の方々から伏見の河川は美しい気持ちのいい河川であるという声が増える	国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所・河川環境管理財団大阪事務所・京都府土木事務所	
平成17年6-7-9月	広範囲の地域の方々へまちづくりに関する情報伝達と新たなコミュニケーション形成をねらう	伏見夢工房	伏見夢工房への認識・期待感が高まる		京都府	
平成17年7月-	地域資産である河川を通し、枯滝期の観光方法を新たに模索	伏見夢工房	多角的な視点で地域資産を投入取り組みを具現化し継続していくことでまち全体の意識がひとつになりつつある	伏見は賑わいのあるまちだという声が増える	京都府 京都府花燈路推進協議会	

現在具現化しようとしている取り組み - 地域を巻き込んだ取り組み -



現在具現化しようとしている取り組み 人づくり・ネットワークづくり河川環境整備を目指した取り組み

京都伏見ジュニア河川レンジャーネットワーク協議会 チャート図



今後の課題 人づくり

